

KL1100

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、KL1100 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008 年 6 月 17 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC	8
RoHS	8
SJ/T 11364-2006	8
安全にお使い頂くために	9
一般的な注意	9
ラックへのマウント	11
同梱品	12
本マニュアルについて	13
第1章 はじめに	15
製品概要	15
特長	16
必要システム構成	17
LCD コンソール	17
セカンドコンソール	17
ケーブル	18
OS	19
製品各部名称	20
フロントパネル	20
キーボードパネル	21
LCD パネル	22
リアパネル (AC 電源使用モデル: 日本向け製品)	23
リアパネル (DC 電源使用モデル)	24
第2章 ハードウェアセットアップ	25
セットアップの前に	25
標準ラックマウントキット	26
接続方法	28
接続図	28
第3章 操作方法	29
コンソールを開く	29
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合	29
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合	31
操作上の注意事項	32
コンソールを閉じる	33

ホットプラグ	35
シャットダウンと再起動.....	35
LCD の OSD 設定.....	36
LCD ボタン	36
LCD 調整の設定.....	37
KL1100 動作モードの設定	38
ポート ID の番号割り当てとポートの選択	39
第 4 章 ファームウェアアップグレード	40
ファームウェアアップグレードユーティリティ.....	40
アップグレードをはじめる前に	40
ファームウェアアップグレードモード	41
アップグレード作業.....	42
ファームウェアアップグレードリカバリー	46
ファームウェアアップグレードモードの終了.....	46
付録	47
製品仕様.....	47
イージーセットアップラックマウントキット	50
Sun キーボード エミュレーション	54
トラブルシューティング	55
SPHD コネクタについて	55

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせて適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。

- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KL1100 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KL1100 デュアルスライド LCD コンソール
(標準ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ KVM ケーブル × 1
- ◆ 電源ケーブル × 1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル × 1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル × 1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド × 1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KL1100 に関する情報や使用法について説明しており、取付・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。
マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:KL1100 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ:KL1100 ハードウェアセットアップおよび基本的な操作手順について説明しています。

第3章 基本操作:KL1100 の機能概要および操作方法について説明しています。

第4章 ファームウェアのアップデート:KL1100 のファームウェアの最新版のアップデート方法について説明しています。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

KL1100 は 17 インチ/19 インチ LCD パネル、キーボード、タッチパッドを搭載した、システムラック 1U サイズに収納できるコンソールドロワーです。

KL1100 は互換性のある KVM スイッチに接続してコンソールインターフェースデバイスとなります。新規に導入されるユーザーはもちろん、すでにボックスタイプの KVM スイッチを導入済みで、今後 KVM 一体型のコンソールドロワーを検討されているユーザーでも、KVM システム全体をリプレイスすることなく、デュアルスライド機構がもたらす効率的な操作環境を構築することが可能です。

KL1100 の LCD パネル部分とキーボード/タッチパッドパネル部分はそれぞれ単独でスライドさせることが可能です。キーボード/タッチパッドパネルは使用していないときにはラック内に収納できますので、システムラック前面のスペースを最大限に活用することが可能です。また、LCD パネルのみを引き出して使うことができますので、適宜コンピュータの動作をモニタリングすることが可能です。

さらに便利な仕様として、製品リアパネルには保守作業時のほか、通常のコンソールとしても使用できるセカンドコンソールポートを搭載しています。インターフェースは、PS/2 キーボード・PS/2 マウスおよび USB キーボード・USB マウス、D-sub 15 ピン アナログモニタに対応しています。このセカンドコンソールポートは、最大で 20m 離れた場所で操作することが可能です。

セットアップは非常に簡単で、短時間で作業が終了します。同梱されているカスタム KVM ケーブルを使用して、KL1100 とお使いの KVM スイッチのコンソールポートを接続するだけでお使いいただけます。

KL1100 のファームウェアはアップデート可能です。ATEN のウェブサイトから最新のファームウェアをダウンロード・適用するだけで最新の機能をご利用いただけます。

特長

- ◆ デュアルスライド LCD コンソールドロワー: 1U ラックの空きスペースに収納可能な 17/19 インチ LCD モニター一体型コンソールドロワー
- ◆ お使いの環境によって、AC 電源使用モデルまたは DC 電源使用モデルの選択が可能(※)
- ◆ イージーセットアップラックマウントキットを同梱ーラックマウント作業が簡単に
- ◆ セカンドコンソール対応ーキーボード・マウスは PS/2、USB 両インターフェースをサポート
- ◆ デュアルインタフェースーサーバ側または KVM 側のインターフェースは、接続する KVM ケーブルを選択するだけで PS/2、USB に対応
- ◆ ホットプラグ対応の USB マウス専用ポートをフロントパネルに追加
- ◆ 電源アダプタ内蔵
- ◆ VGA 解像度
 - 解像度 1,280×1,024、周波数 75Hz まで対応 (17/19 インチ共)
 - DDC、DDC2、DDC2B 準拠
 - DDC エミュレーション対応
 - 接続されたコンピュータのビデオ設定は自動で最適化されて表示
- ◆ キーボード仕様ーOADG 109A 準拠 105 キー、Sun キーボード エミュレーション機能搭載
- ◆ デュアルスライド設計ーLCD モニタとキーボード/タッチパッドパネルを独立して操作可能
- ◆ ATEN KVM スイッチおよび大半の他社 KVM スイッチとの互換性あり
- ◆ 付属のレールキットを選択することで様々な奥行きのラックに対応
- ◆ ファームウェアアップグレード可能
- ◆ Microsoft IntelliMouse および一般的なスクロールホイール付きマウスに対応
- ◆ コンソールロック機能ーコンソールドロワーから離れる場合のセキュリティ対策

※日本仕様は AC 電源モデルのみ

必要システム構成

LCD コンソール

- ・ KL1100 は PS/2 コンソールインターフェースの KVM スイッチに対応しております。お使いの KVM スイッチが対応可能か不明な場合は、お求めになった販売店にご確認ください。
- ・ LCD モニタの最大解像度は 1,280×1,024、最大周波数は 75Hz です。スイッチに接続されている各コンピュータの解像度の設定は LCD モニタの最大解像度の範囲内で行うようにしてください。

セカンドコンソール

- ・ KL1100 に接続されているコンピュータ、または KVM スイッチに接続されたコンピュータの中で設定されている VGA 解像度を表示することが可能な VGA、SVGA、マルチシンクモニタ
- ・ PS/2 キーボード・PS/2 マウスまたは USB キーボード・USB マウス

取り付けたセカンドコンソールと KL1100 を延長してご使用になる場合は、別途、延長用のケーブルが必要になります。詳細は代理店までお問い合わせください。

ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、専用 KVM ケーブルをご使用ください。ケーブルの長さは下記の表の通り各種取り揃えております。お求めの際には販売店までご連絡ください。

製品画像	機能	型番(長さ)
	PS/2 KVM ケーブル	
	スイッチ側 SPHD × 1	2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m)
	コンピュータ側 キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m)
	PS/2 KVM ケーブル(製品同梱ケーブル)	
	スイッチ側 SPHD × 1	2L-5702P(1.8m)
	コンピュータ側 キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	
	USB KVM ケーブル	2L-5201U(1.2m)
	スイッチ側 SPHD × 1	2L-5202U(1.8m)
	コンピュータ側 USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	2L-5203U(3m) 2L-5206U(5m)

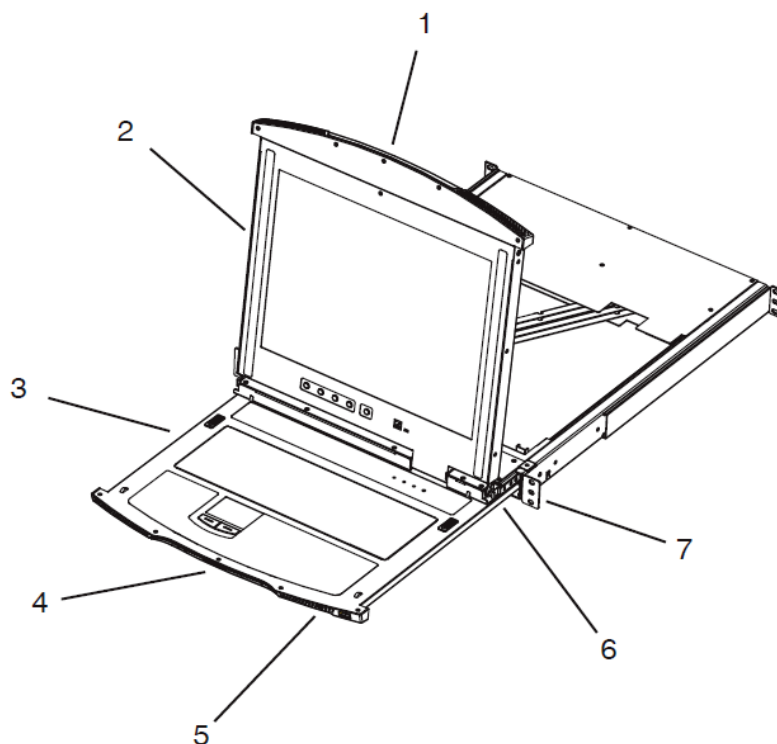
OS

KL1100 は、下記の OS を搭載したサーバを接続することが可能です。

OS		バージョン
Windows		NT 以降
Linux	RedHat	7.1 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
DOS		6.2 以降

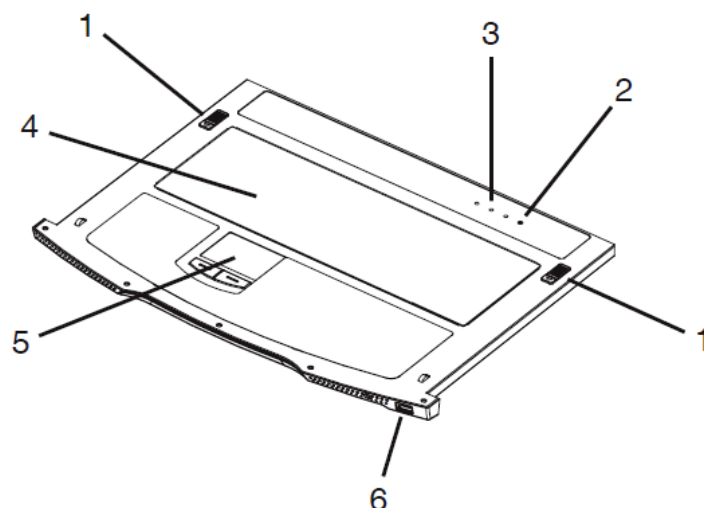
製品各部名称

フロントパネル



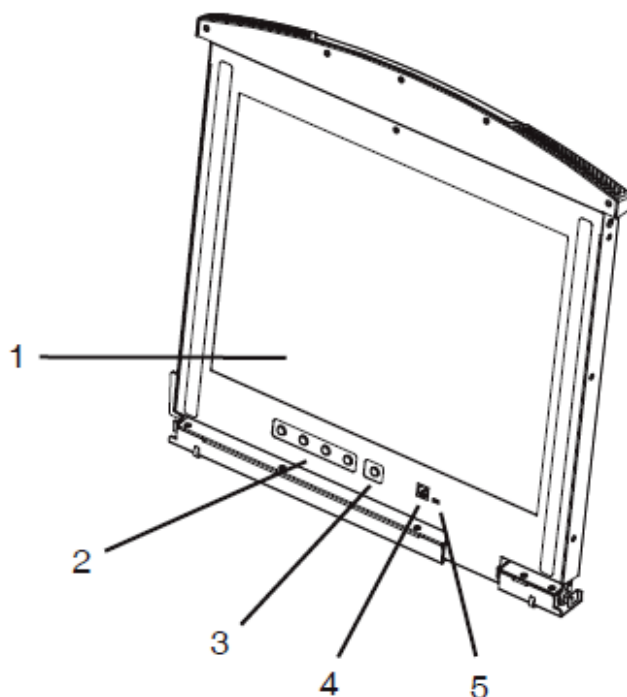
No.	名称	説明
1	LCD パネル側ハンドル	LCD パネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。取り扱い方法は p.29 をご参照ください。
2	LCD パネル	p.22 の「LCD パネル」をご参照ください。
3	キーボードパネル	p.21 の「キーボードパネル」をご参照ください。
4	キーボードパネル側ハンドル	キーボードパネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。取り扱い方法は p.29 をご参照ください。
5	電源 LED	ブルーに点灯し、電源がオンになっていることを示します。
6	LCD リリースキャッチ	LCD パネル収納時、両端にあるリリースキャッチを操作します。
7	ラックマウントタブ	ラックへの搭載時、ネジ止めを行います。詳細は p.26 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

キーボードパネル



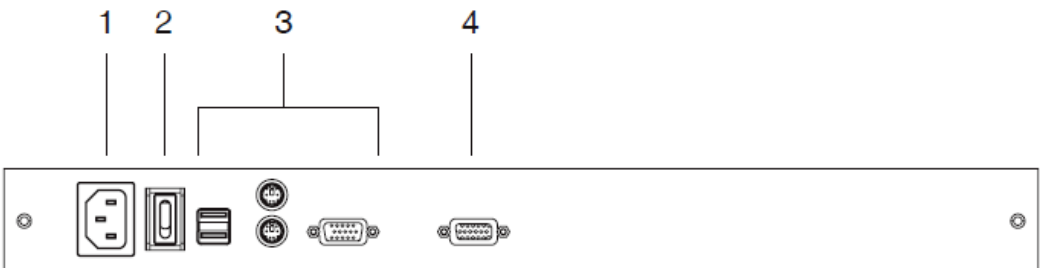
No.	名称	説明
1	キーボードリリースキャッチ	両サイドにあり、キーボードを引き出すときに使用します。
2	リセットボタン	◆ このボタンを押しながら KL1100 を起動すると、ファームウェアを工場出荷時のバージョンに戻します。ファームウェアアップグレードで失敗した時などに、この操作を行ってください。 ◆ このボタンを3秒以上押すとKVMをリセットします。 注意: ピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。
3	Lock LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各 LED ランプです。
4	キーボード	標準 105 キー キーボードです。
5	タッチパッド	標準マウスタッチパッドです。
6	外付マウスポート	USB マウスを接続して使用できます。

LCD パネル



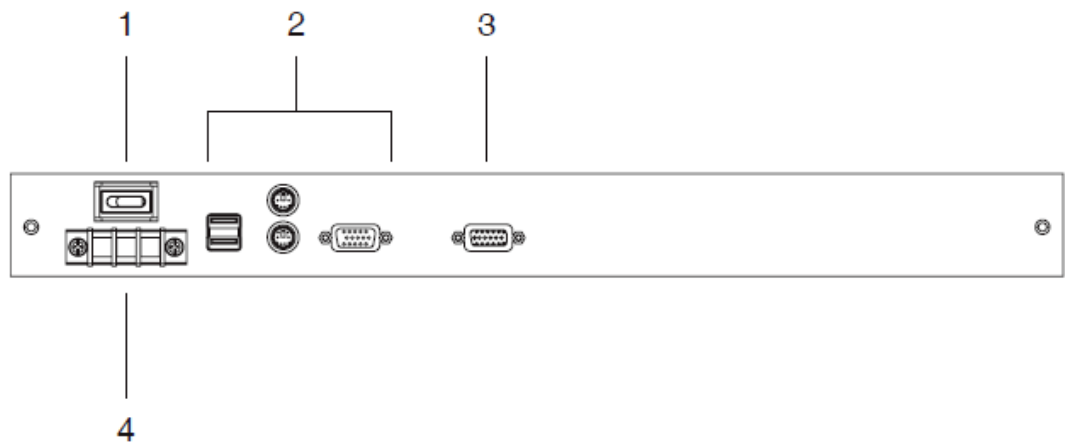
No.	名称	説明
1	LCD パネル	LCD パネルは収納状態から引き出し、パネルを起こしてから使用します。パネルの引き出し・収納操作については、p.29 をご参照ください。
2	LCD 調整ボタン	ディスプレイ表示の調整を行います。調整方法については、p.36 をご参照ください。
3	LCD 電源ボタン	このボタンを押すと、ディスプレイの電源のみをオフにすることができます。ボタンがオレンジ色に点灯しているときは、ディスプレイの電源はオフですが、KVM スイッチの電源はオンになっていることを示します。
4	ファームウェアアップグレードポート	ファームウェアアップグレードケーブルをこの RJ-11 コネクタに接続し、管理者のコンピュータからお使いの KL1100 にファームウェアの更新データを通信します。
5	ファームウェアアップグレードスイッチ	ファームウェアの更新処理が正常終了しなかった場合、このスイッチを動かしてリカバリーを行います。リカバリー方法の詳細については、p.46 をご参照ください。

リアパネル(AC 電源使用モデル: 日本向け製品)



No.	名称	説明
1	電源ソケット	IEC 60320 C14 3 極ソケットです。同梱の AC 電源コードを接続してください。
2	電源スイッチ	電源のオン/オフを行うロッカースイッチです。
3	セカンドコンソール	KL1100 は通常のコンソールとして使用することもできるセカンドコンソールポートを搭載していますので、これらのポートにキーボード、モニタ、マウスを接続することができます。
4	KVM ポート	対応する KVM ケーブルで、コンピュータとの接続に使用します。 注意: この黄色い SPHD コネクタは、ATEN KVM ケーブル専用設計されたものです(ケーブルの詳細については p.18 参照)。モニタの接続に使用する D-Sub 15 ピンコネクタなどを誤って接続しないよう、ご注意ください。

リアパネル(DC 電源使用モデル)



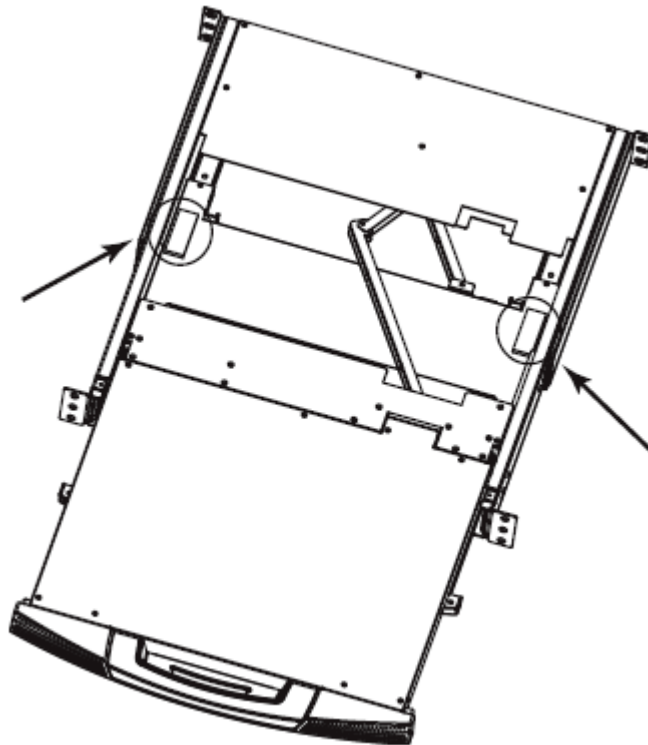
No.	名称	説明
1	電源スイッチ	電源のオン/オフを行うロックスイッチです。
2	外部コンソール	KL1100 は通常のコソールとして使用することもできるセカンドコンソールポートを搭載していますので、これらのポートにキーボード、モニタ、マウスを接続することができます。
3	KVM ポート	対応する KVM ケーブルで、コンピュータとの接続に使用します。 注意: この黄色い SPHD コネクタは、ATEN KVM ケーブル専用設計されたものです(ケーブルの詳細については p.18 参照)。モニタの接続に使用する D-Sub 15 ピンコネクタなどを誤って接続しないよう、ご注意ください。
4	DC ターミナルブロック	DC 電源はここに接続してください。

第2章 ハードウェアセットアップ

セットアップの前に

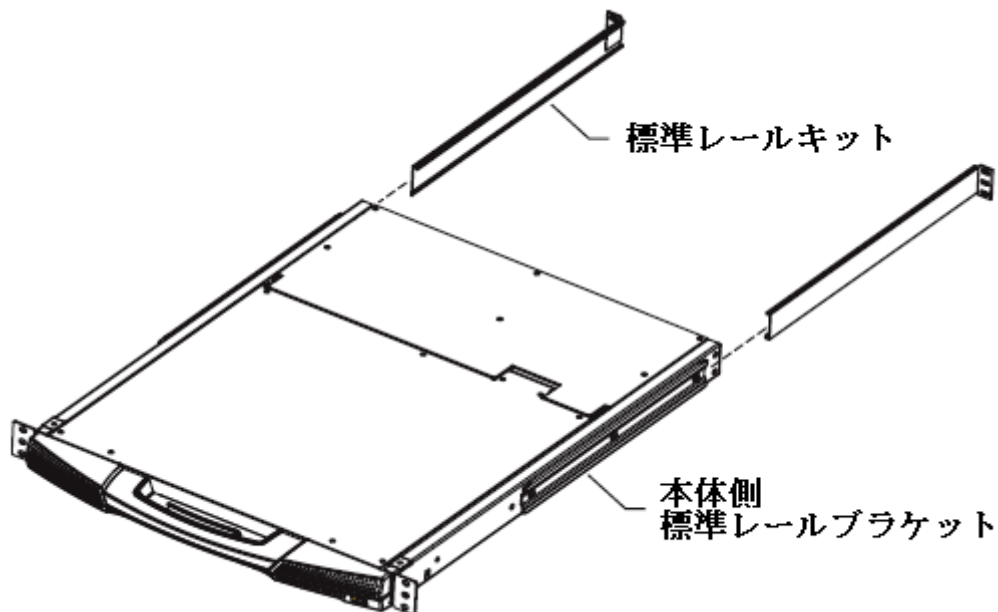


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.9 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
3. 輸送時の振動が危機にダメージを与えることを防ぐために、KL1100 製品本体の下図の位置にクッションが取り付けられています。KL1100 をラックに取り付ける前に、LCD パネルをクッションが見える位置まで引き出し(引き出し方については p.29 参照)、それからクッションを取り除いてから作業を行ってください。



標準ラックマウントキット

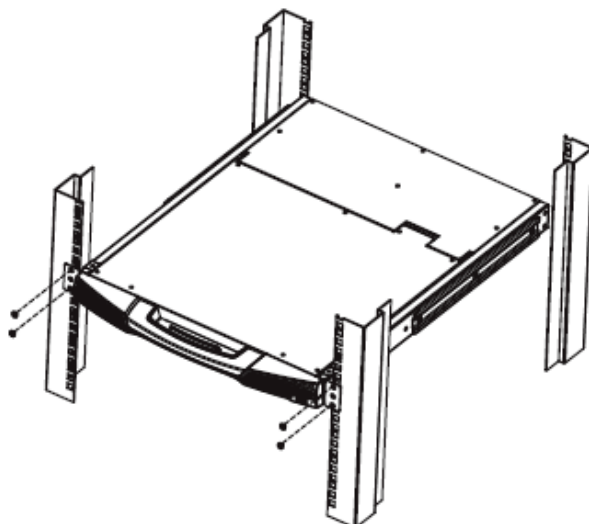
KL1100 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウンティングが可能なラック支柱奥行きは、42～77cm です。



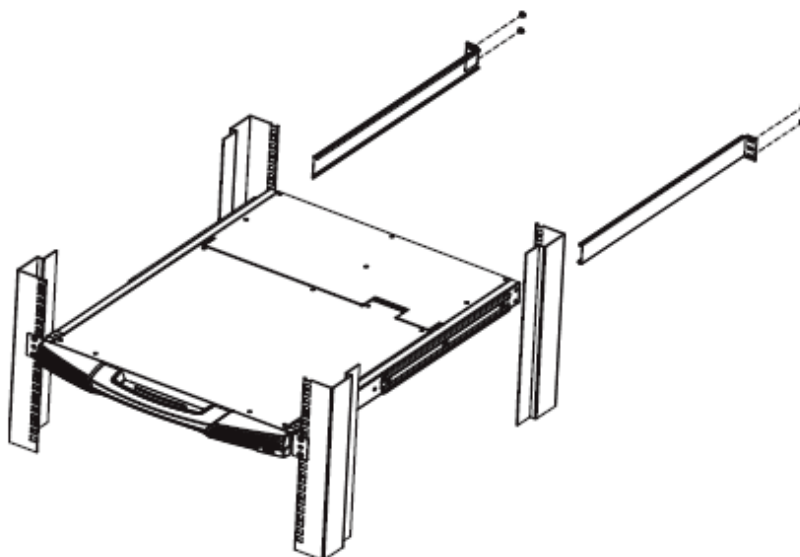
-
- 注意:**
1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者と、複数で行ってください。
 2. ラックへの取付に使用するネジおよびケージナットは製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケージナットをご用意ください。
 3. オプションの**イージーセットアップラックマウントキット**が製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.50 をご参照ください。
-

標準ラックマウントキットでのラックへの取付は、下記の手順で行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者と、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

注意: 適切なエアフロー確保のために製品両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。

接続方法

下記の接続図を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

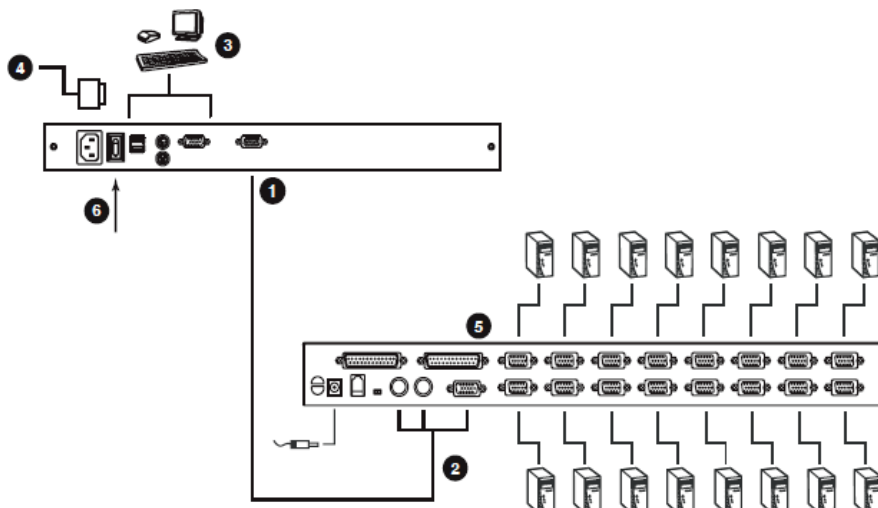
1. KVM ケーブル(製品に同梱、または別途ご購入。詳細については p.18 参照)の先端にある SPHD コネクタを KL1100 の KVM ポートに接続します。
2. 【KL1100 を直接 1 台のコンピュータに接続する場合】 KVM ケーブルのキーボード、モニタ、マウスの各コネクタを、コンピュータの対応するポートに接続してください。

【KL1100 を KVM スイッチのコンソールとして使用する場合】 KVM ケーブルのキーボード、モニタ、マウスの各コネクタを、KVM スイッチのコンソール部分の対応するポートに接続してください。

セカンドコンソールを使用する場合は、KL1100 リアパネル セカンドコンソールポートにそれぞれ接続してください。ポートにはわかりやすくするため、接続するデバイスのアイコンと PC99 準拠のカラーリングが施されています。

3. KL1100 を電源に接続します。
 - ◆ AC 電源タイプの製品をご使用の場合は、電源コードを LCD パネルの電源ソケットに接続し、コンセントに挿してください。
4. 【KVM スイッチをお使いの場合】KVM スイッチの電源をオンにしてください。
5. KL1100 の電源をオンにしてください。

接続図



第3章 操作方法

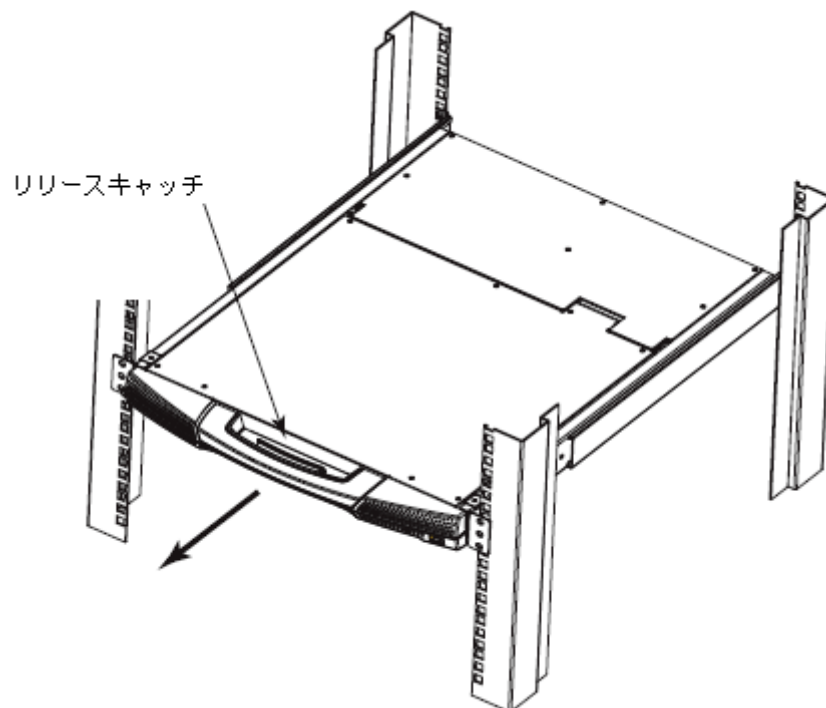
コンソールを開く

KL1100 コンソールは、上部パネルに取り付けられている LCD ディスプレイ、および下部パネルに取り付けられているキーボード/タッチパッドの2つの部分から構成されています。

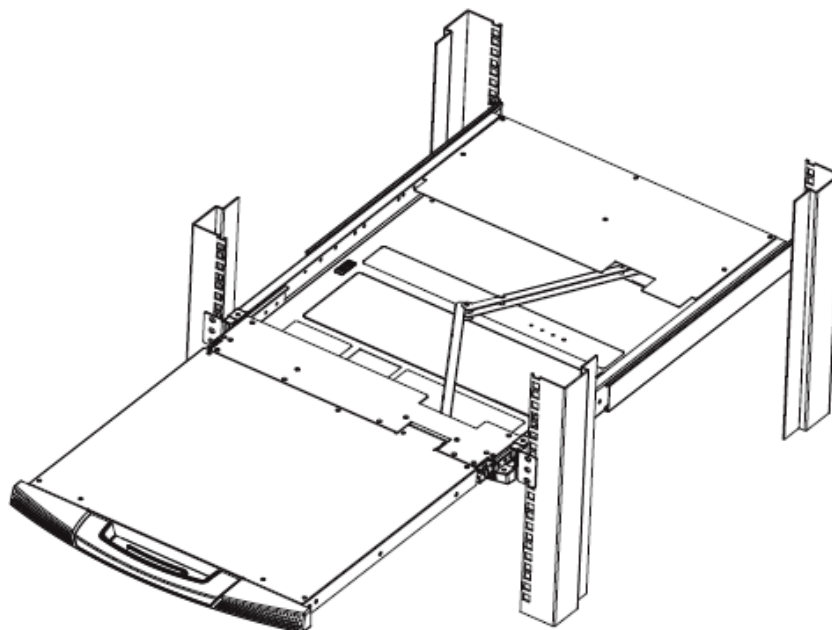
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルは同時に使用することもできますし、それぞれ個別に動かすことも可能です。この機能によって、キーボード/タッチパッドパネルが必要でない場合は、このパネルを収納したまま LCD パネルだけを引き出して使用することができます。

LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合

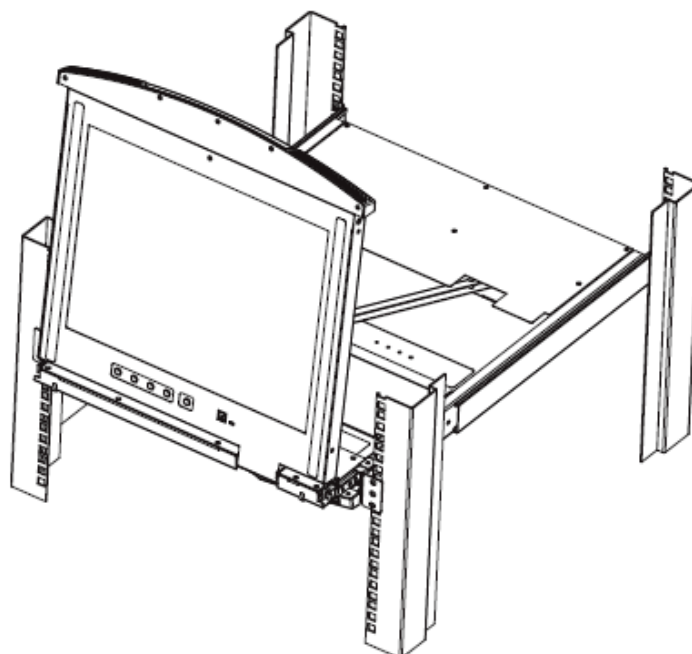
1. リリースキャッチを引っ張って、パネルを手前に引き出します。コンソールのロックが解除されたら、リリースキャッチから手を離してスライド操作ができます。



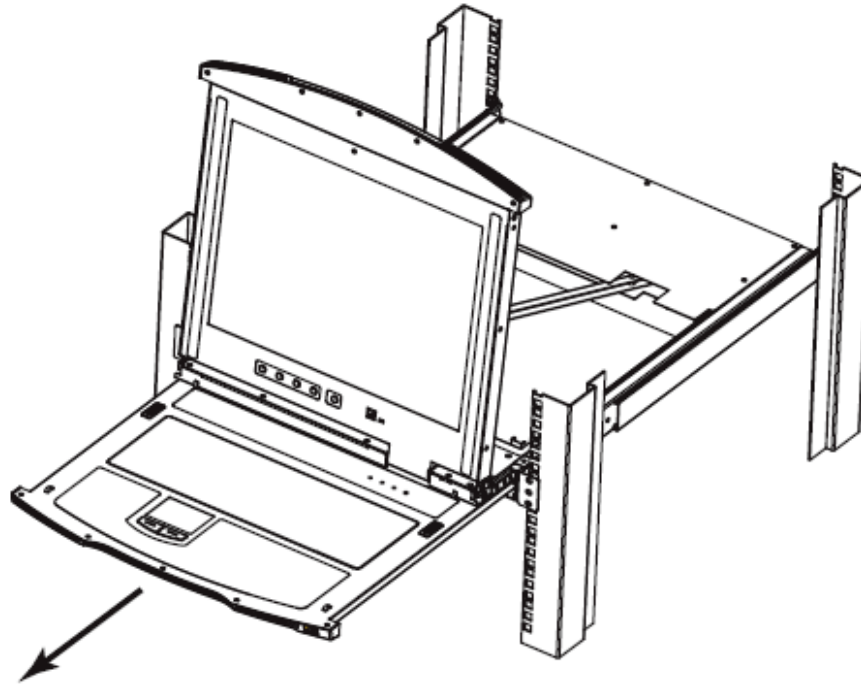
2. 「カチッ」という音がするまで LCD パネルを引き出します。



3. モニタ部分が手前にくるように LCD パネルを起こします。



4. 「カチッ」という音がするまでキーボード/タッチパッドパネルを引き出します。



LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合

上記の「LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合」の内容を参考にしながら、下記の手順で操作してください。

1. リリースキャッチを押して、両パネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。

注意: コンソールのロックが解除されたら、キャッチから手を離してください。

2. 上部パネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。

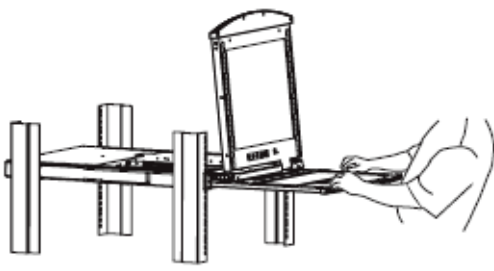
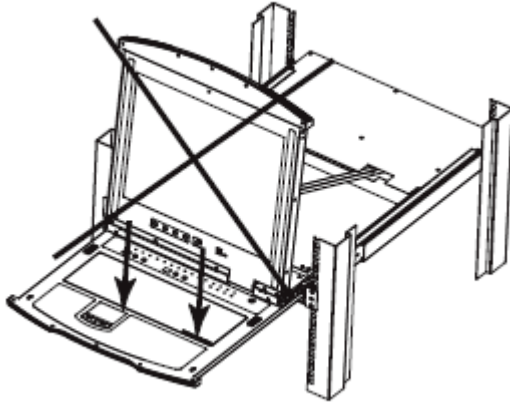
3. 上部パネルを起こして、LCD 画面が手前にくるようにします。

注意: キーボードモジュールの重量超過に関する以下の注意書きを、ご参照ください。

操作上の注意事項

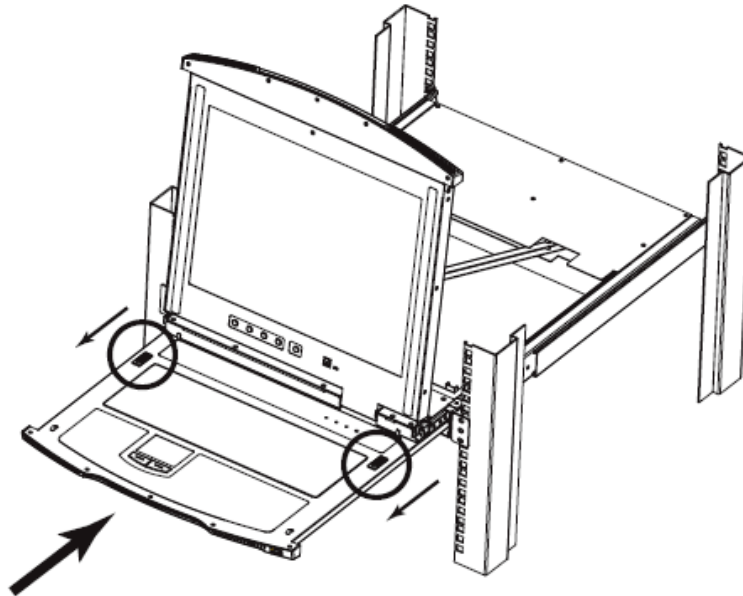


キーボードパネルはある程度の加重に耐えるよう設計されておりますが、安全にお使い頂くため、長時間無理な力がかからないようにご使用ください。

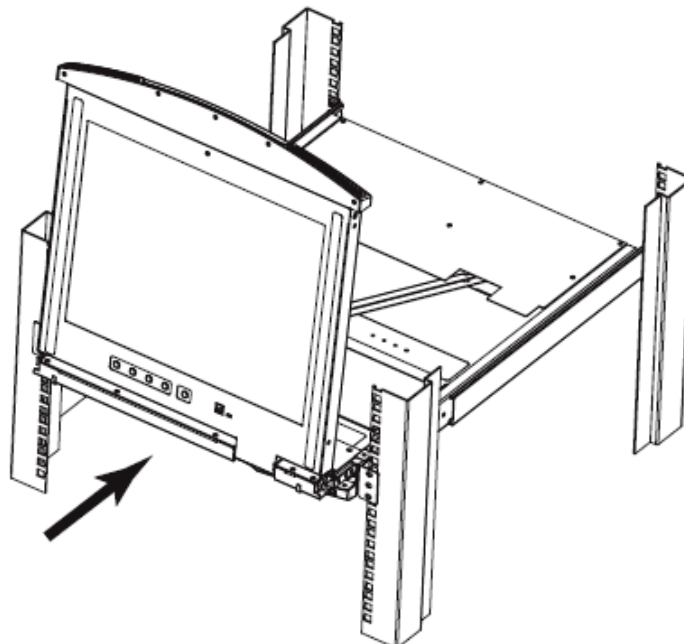
	正しい使用方法 手を軽くキーボードに置いて作業する。
	間違った使用方法 ◆ キーボードに体重をかけないでください。 ◆ キーボードに重いものを載せないでください。

コンソールを閉じる

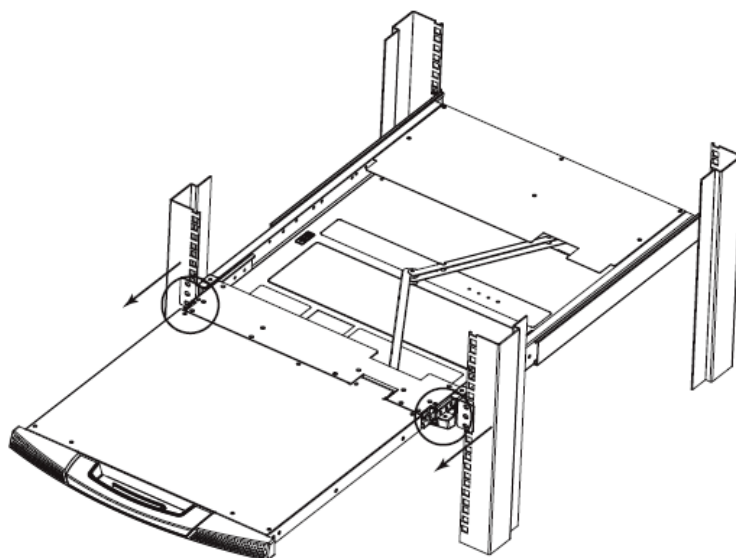
1. キーボード/タッチパッドパネルの両側についているリリースキャッチを手前にスライドさせロックを解除し、このパネルを奥にスライドさせます。



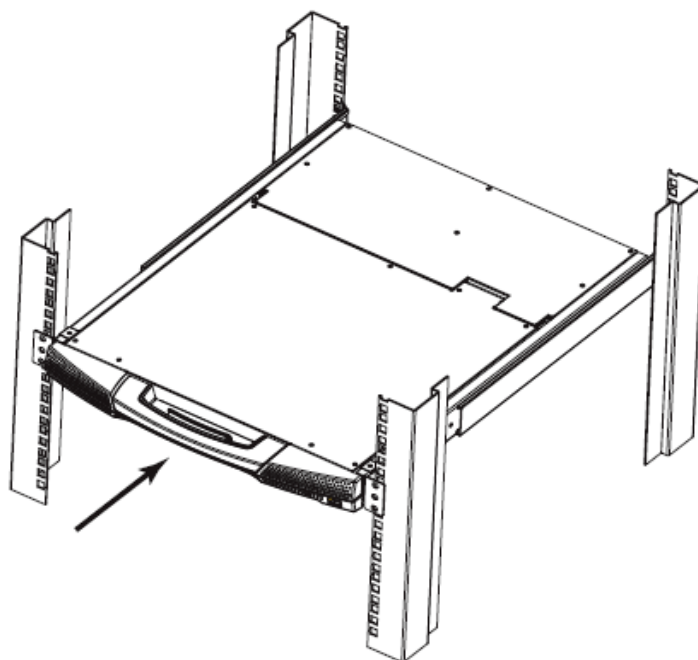
2. キャッチのロックを解除したら、フロントハンドルを使ってキーボード/タッチパッドパネルをラックに収納します。



3. LCD パネルを下に倒し、側面のキャッチを引っ張ってロックを解除します。



4. LCD パネルを奥にスライドさせ、ラックに収納します。



ホットプラグ

KL1100 はホットプラグ対応製品です。KL1100 をシャットダウンすることなく、ケーブルをポートに
つなぎかえることでキーボードやマウス等のつけはずしが可能です。

シャットダウンと再起動

ファームウェアのアップデートなどの理由により KL1100 のシャットダウンが必要な場合は、リアパ
ネルにある電源スイッチで簡単に電源を切ることができます。

KL1100 の再起動も同様に、リアパネルの電源スイッチを一旦切って入れなおすことで簡単に行
うことができます。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD パネルの OSD によって、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下記の表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	◆ OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと OSD メインメニューが表示されます。 ◆ ナビゲーションボタン(  または  )で OSD メニュー項目の選択をしている際にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
 	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
 	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	◆ OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。 ◆ OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。 ◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整の設定

下記の表は LCD スクリーンの OSD 調整の設定に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、フェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波(モアレ)が生じている場合には、クロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューを工場出荷時の設定にリセットします。 注意: OSD メニュー言語の設定のみ、工場出荷時の初期設定値には戻りません。

KL1100 動作モードの設定

KL1100 は下表のホットキーの組み合わせで、本体動作モードを選択することができます。

ホットキー	動作
[Ctrl] [Alt] [Shift] [P] [C] [Enter]	キーボードを [PC] に設定します。(デフォルト)
[Ctrl] [Alt] [Shift] [S] [U] [N] [Enter]	キーボードを[SUN]を選択します。
[Ctrl] [Alt] [Shift] [u] [p] [g] [r] [a] [d] [e] [Enter]	ファームウェアアップグレードモードを有効にします。 注意: このホットキーはファームウェアアップグレード回復スイッチが通常モードの場合のみ有効です。
[Ctrl] [Alt] [Shift] [L] [Enter]	ローカル(正面 LCD 側)コンソールを有効、またセカンドコンソールを無効にします。
[Ctrl] [Alt] [Shift] [R] [Enter]	セカンドコンソールを有効、またローカル(正面 LCD 側)コンソールを無効にします。
[Ctrl] [Alt] [Shift] [L] [R] [Enter] または [Ctrl] [Alt] [Shift] [R] [L] [Enter]	ローカルコンソール/セカンドコンソール共に有効にします。(デフォルト)

- 注意:**
1. ホットキーは[Ctrl], [Alt], [Shift]のように、連続して押してください。
 2. コンソールの選択は保存されません。KL1100 の電源を入れなおした場合は、デフォルトの設定に従って両方のコンソールが有効になります。
 3. KL1100 に接続されている KVM スイッチが、全く同様に[Ctrl], [Alt], [Shift]の組み合わせを使用するものだった場合、このホットキー操作は入力している KL1100 自身に対して実行され、その先の KVM スイッチには入力が反映されません。

ポート ID の番号割り当てとポートの選択

ポート ID に対する番号割り当てとポートの選択は KL1100 に接続された KVM スイッチの。詳細については、お使いの KVM スイッチのユーザーマニュアルをご参照ください。

第4章

ファームウェアのアップグレード

ファームウェアアップグレードユーティリティ

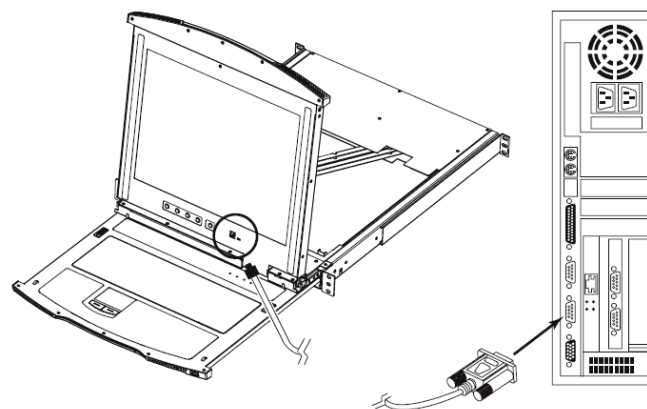
KL1100 のファームウェア改訂版も他製品と同様、ファームウェアアップグレードパッケージとして弊社 Web サイトから提供しております。Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用し、KVM スイッチのファームウェアを簡単に自動アップグレードできます。

最新のファームウェアは ATEN Web サイトで公開しておりますので、定期的にダウンロードサイトをご覧くださいようお願い致します。<http://www.aten.com/download/download.php>

アップグレードをはじめる前に

ファームウェアアップグレードをはじめる前に下記のように準備してください。

1. KL1100 に接続されていないコンピュータで弊社 Web ダウンロードサイトにアクセスしてください。型番のリストから KL1100 を選択してください。
2. アップグレードしたいバージョンのパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。(最新版のダウンロードを推奨します)
3. 製品同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、KL1100 側ファームウェアアップグレードポートと、ファームウェアパッケージを保存したコンピュータ側 COM ポートを接続してください。



ファームウェアアップグレードモード

KL1100 のアップグレードモードは、ホットキーによる操作(詳細については p.38 の「ホットキーによるポートの選択」参照)、またはファームウェアリカバリーモードへの変更(詳細については p.46 の「ファームウェアアップグレードリカバリー」参照)のいずれかの方法で行うことが可能です。

注意: ホットキーを使用してファームウェアアップグレードモードを有効にするためには、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ(詳細については p.22 参照)が「NORMAL」の位置にセットされている必要があります。

1. コンソールのリア側にある電源スイッチを使って、KL1100 の電源をオフにします。
2. ファームウェアスイッチを RECOVER に切り替えます。(詳細については p.22 参照)
3. コンソールのリア側にある電源スイッチを使って、KL1100 の電源をオンにします。

KL1100 がファームウェアアップグレードモードになっている場合、Num Lock、Caps Lock、および Scroll Lock の各 LED が点滅します。

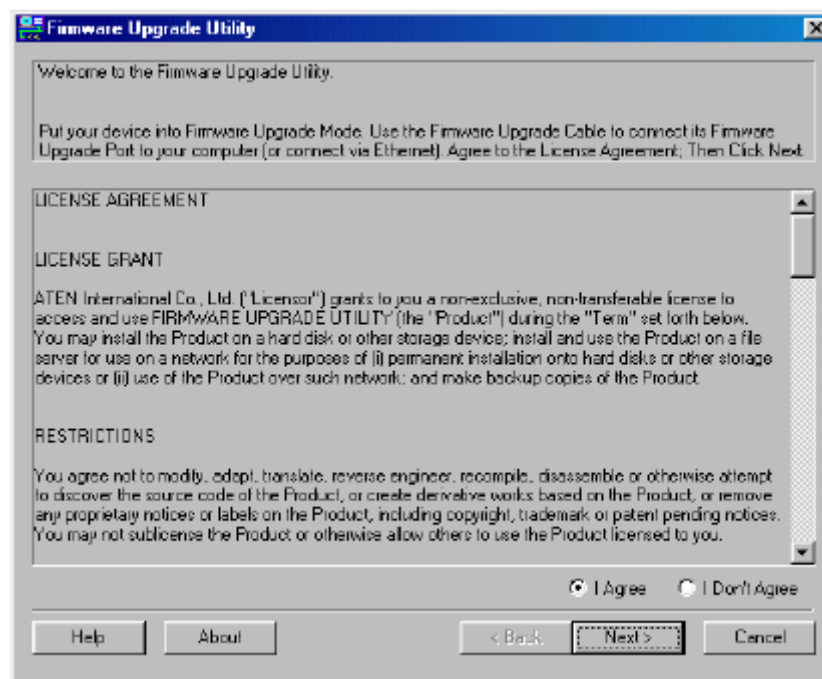
ファームウェアアップグレードモードを終了するには、p.46 をご参照ください。

アップグレード作業

アップグレード開始

ファームウェアのアップグレードは、下記の手順で行ってください。

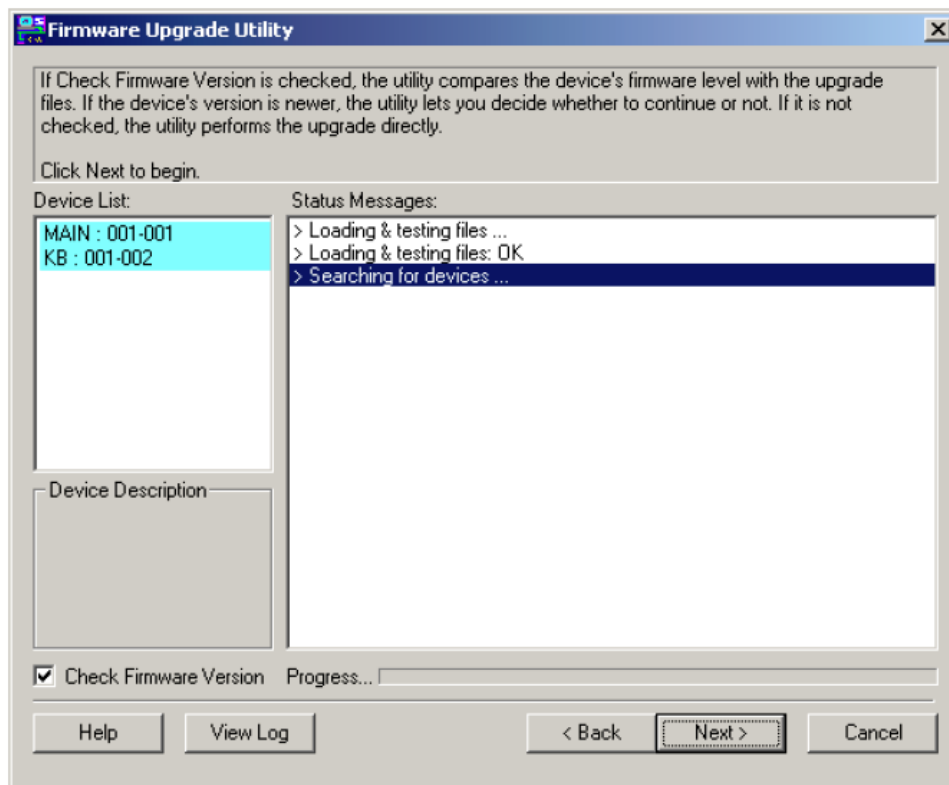
1. KL1100 をファームウェアアップグレードモードにして、ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。 - 保存したファイルのアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインからファイルパスを入力して実行してください。
「Welcome Firmware Upgrade Utility」の画面が表示されます。



注意: 画像は例です。

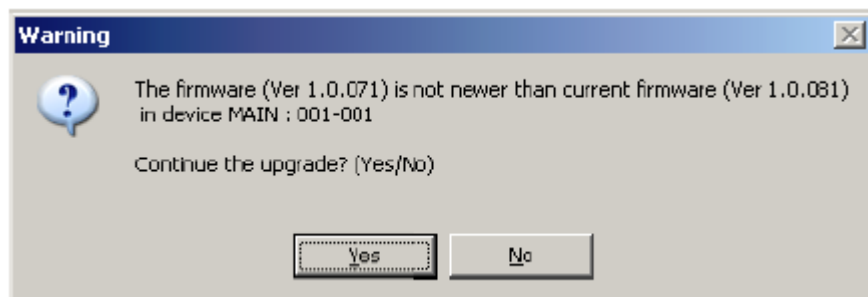
2. 使用許諾契約書を読み、同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

3. 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。



ユーティリティは接続先を調査し、パッケージからアップグレード可能なデバイスリストを表示します。

4. 「Next」ボタンをクリックしてアップグレードを実行します。
- ◆ 「Check Firmware Version」のチェックボックスをオンにすると、ユーティリティはデバイスのファームウェアのレベルとアップグレードファイルの比較を行います。もし、デバイスにインストールされているバージョンがアップグレードファイルのバージョンより新しい場合は、下記のダイアログが表示され、アップグレードを継続するかどうか選択できます。

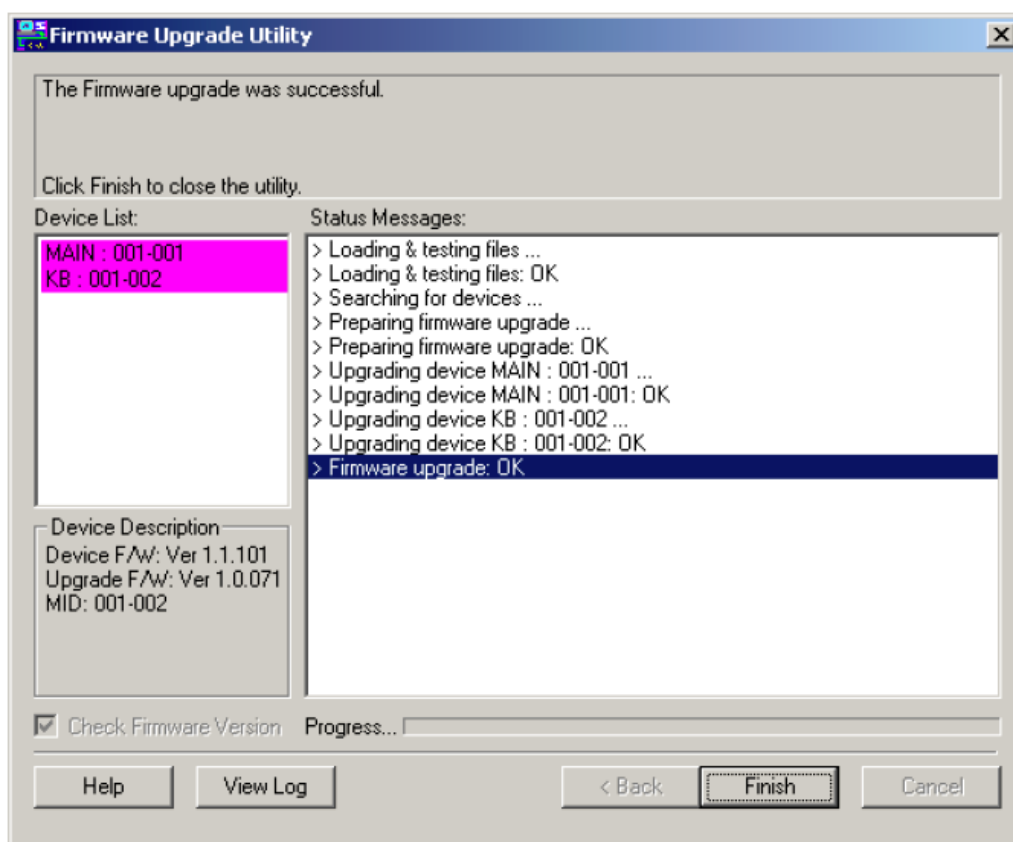


チェックボックスがオフの場合、ユーティリティはファームウェアのバージョンを確認せずアップグレードファイルをインストールします。

- ◆ アップグレード進捗状況を表すメッセージがメッセージパネルに、また、進行状況がプログレスバーに表示されます。

アップグレード成功

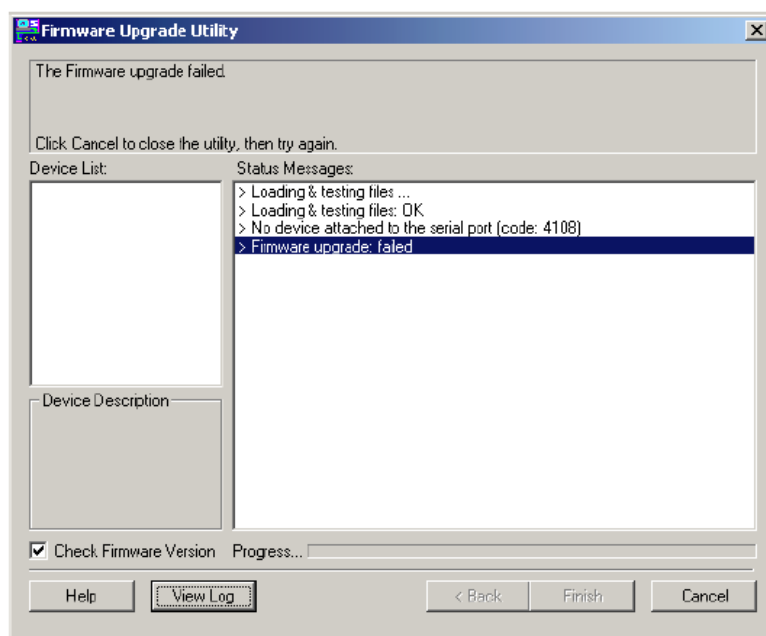
アップグレードが完了した後、画面表示にてアップグレードが成功したことが表示されます：



「Finish」ボタンをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じてください。

アップグレード失敗

ファームウェアのアップグレードが失敗した場合、以下のダイアログが表示されます。



キャンセルボタンをクリックし、ダイアログを閉じ、次の項に従ってファームウェアアップグレードリカバリーを実行してください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となる代表的な原因は、以下の 3 つがあります。

- ◆ ファームウェアアップグレードモードを起動したが、アップグレード操作を行わなかった。
- ◆ メインボードファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。
- ◆ I/O ボードのファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。

ファームウェアアップグレードリカバリーを実行する場合、下記をご参照ください。

1. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ (p.22 参照) を「RECOVER」の位置に切り替えてください。
2. 「シャットダウンと再起動」 (p.35 参照) に記載されている指示に従って、KL1100 の電源を切ってから再起動してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」の位置に戻してください。
4. 2の作業をもう一度行ってください。

これで、ファームウェアアップグレードリカバリー操作は完了です。KVM スイッチが使用可能になります。

ファームウェアアップグレードモードの終了

ファームウェアアップグレードモードの終了は以下の手順で行ってください。

1. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ (p.22 参照) を「NORMAL」の位置に戻してください。
2. 「シャットダウンと再起動」 (p.35 参照) に記載されている指示に従って、KL1100 の電源を切ってから再起動してください。

付録

製品仕様

機能		KL1100
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	1
	最大	(接続する KVM スイッチに依存)
セカンドコンソール		1
コンピュータ側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB
	マウス	
セカンドコンソール側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB
	マウス	
ポート選択方法		(接続する KVM スイッチに依存)
コンピュータ側コネクタ	キーボード	SPHD メス(イエロー)×1
	マウス	
	モニタ	
セカンドコンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1、USB タイプ A メス×1
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1、USB タイプ A メス×1
	モニタ	D-sub15 ピンメス×1
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源	ロッカースイッチ×1
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1
	LCD 電源	プッシュボタン×1
	LCD OSD	プッシュボタン×4
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11
外付けマウスポート		USB タイプ A メス×1
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1
LED	電源	ブルー×1
	Num Lock	グリーン×1
	Caps Lock	グリーン×1
	Scroll Lock	グリーン×1
	LCD 電源	オレンジ×1

(表は次のページに続きます)

機能		KL1100
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz
消費電力	17 インチ LCD	29.6W
	19 インチ LCD	32.2W
VGA 解像度	17 インチ LCD	最大 1,280×1,024 DDC2B 準拠
	19 インチ LCD	最大 1,280×1,024 DDC2B 準拠
動作環境	動作温度	0～40℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80% RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量	17 インチ LCD	15.9kg
	19 インチ LCD	17.4kg
サイズ(W×D×H)	17 インチ LCD	482×614×44mm
	19 インチ LCD	482×665×44mm
同梱品		2L-5702P(1.8m)ケーブル×1 電源ケーブル(1.8m)×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 イーजीセットアップラックマウントキット (ショート or ロング)×1 多言語版クイックスタートガイド×1 英語版ユーザーマニュアル×1

(表は次のページに続きます)

機能	KL1100
対応 KVM ケーブル	《PS/2 KVM ケーブル》
	2L-5201P (1.2m)
	2L-5202P (1.8m)
	2L-5702P (1.8m)
	2L-5203P (3m)
	2L-5206P (6m)
	2L-5210P (10m)
	《USB KVM ケーブル》
	2L-5201U (1.2m)
	2L-5202U (1.8m)
	2L-5203U (3m)
	2L-5205U (5m)
	* 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5702P×1 が付属しています。

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

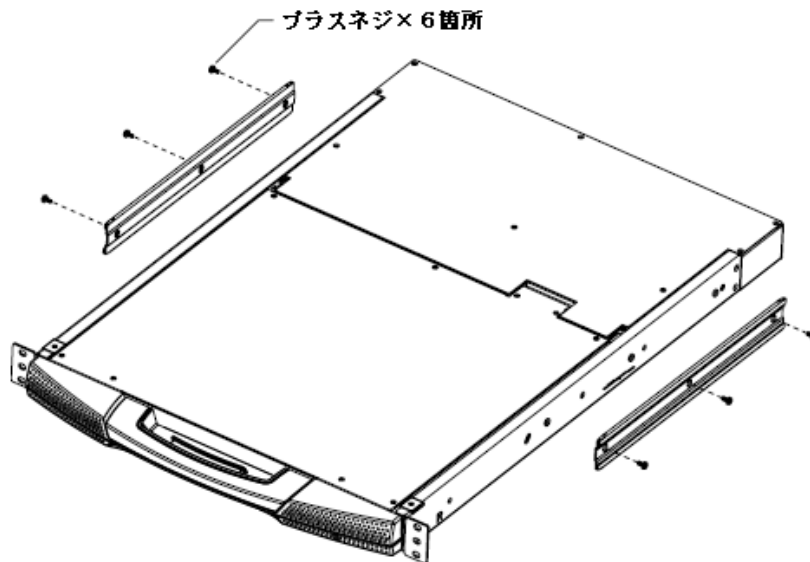
KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
KL1100MJJS KL1100NJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ショート	42cm～70cm
KL1100MJJL KL1100NJJL	イージーセットアップ ラックマウントキット/ロング	68cm～105cm

注意： ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

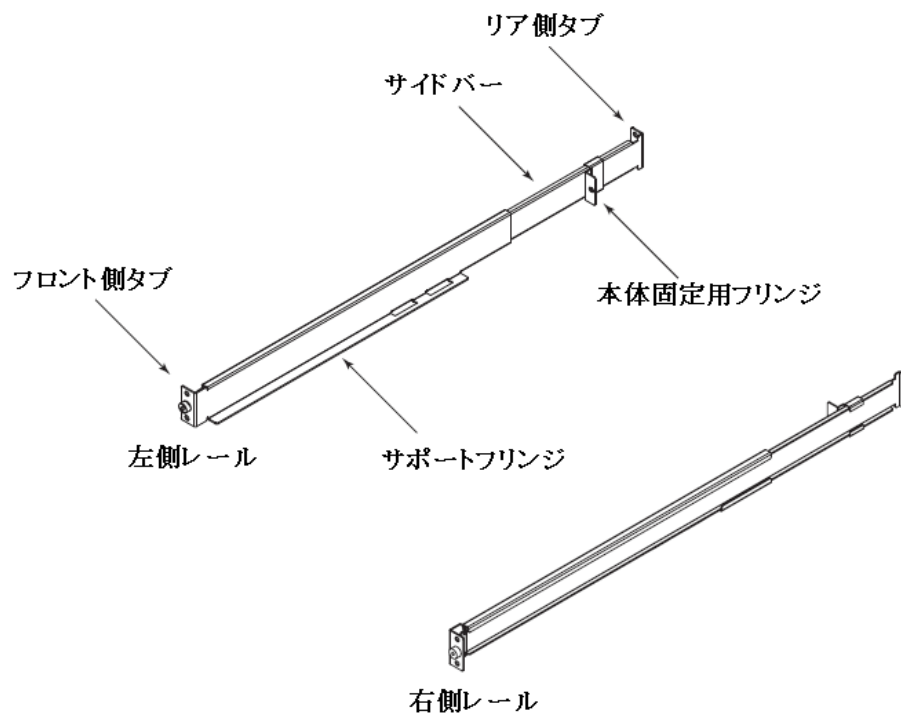
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って KL1100 を取り付けるだけです。詳細については p.26 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使って作業を行う場合、一人で KL1100 を取り付けることが可能です。イージーセットアップラックマウントキットを使用してのマウント作業は下記の手順に従ってください。(ショート/ロング共通)

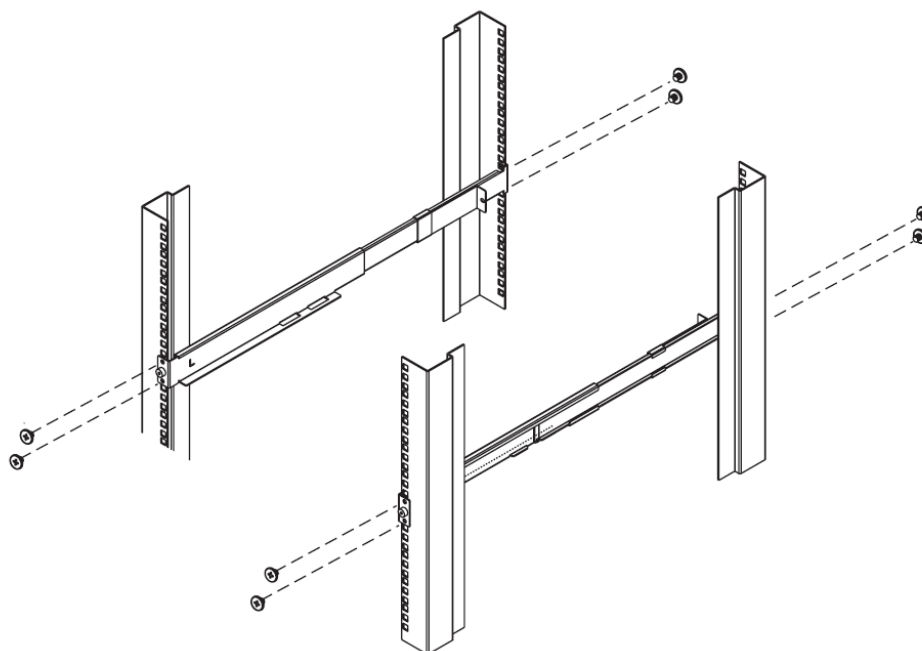
1. KL1100 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イー
ジーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールを取り外してください。
外したネジとレールは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてくだ
さい。



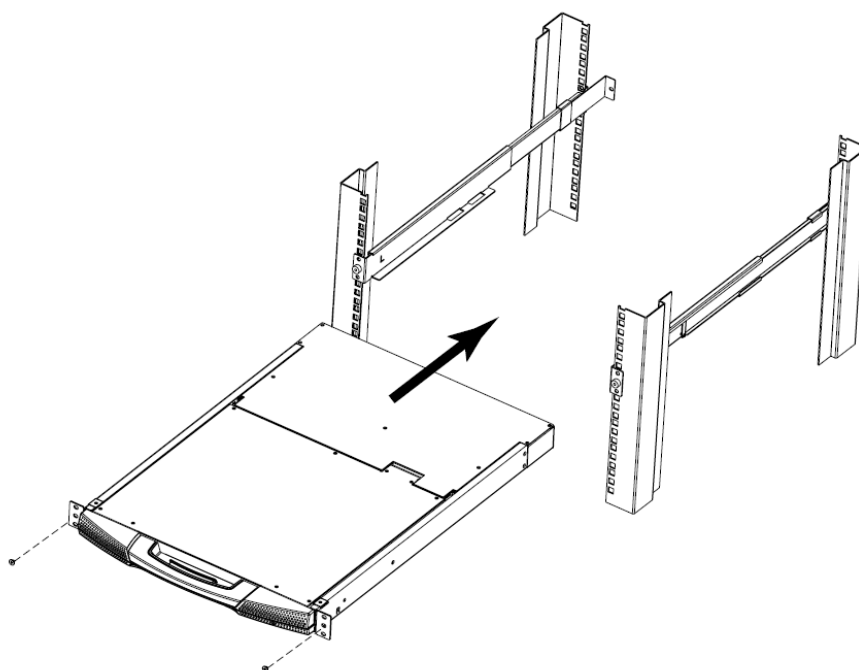
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右
前後を確認してください。



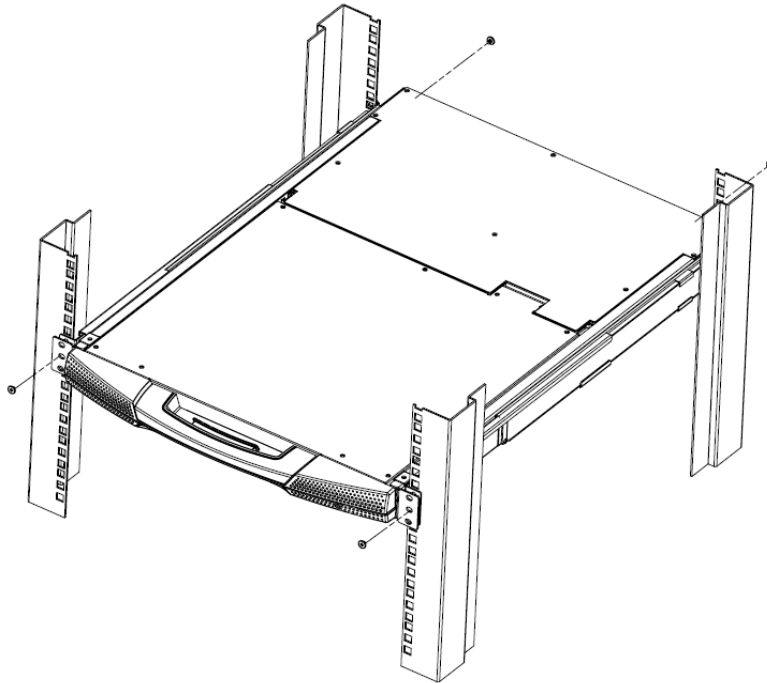
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



- 3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、KL1100 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCD パネル/キーボードパネルを引き出してみ、問題なくオペレーションが行えることを確認してください。
6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

Sun キーボード エミュレーション

PC 互換キーボード(101/104 キー)キーボードは、[Ctrl]キーが他のキーと同時に使用された場合、Sun キーボードの機能をエミュレートします。対応する機能は以下の表のとおりです。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	 
[Ctrl] [2]	 - 
[Ctrl] [3]	 + 
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 入力の際は同時に押すのではなく、[Ctrl]もしくは[Alt]キーを押してすぐに離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。

トラブルシューティング

現象	対処法
外付モニタにゴーストが発生する。	外付モニタと KL1100 間の距離が離れすぎている可能性があります。使用する VGA ケーブルの最大長を 20m(もしくはそれ以下)にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してみてください。
キーボードから入力した文字が正しく表示されない場合がある。	ポートに対するキーボードの設定が、お使いのキーボードに合っていない可能性があります。キーボードの設定を確認し、正しく設定しなおしてください。
Sunキーボードの特殊キーが使用できない。	Sun キーボード エミュレーションのキー入力 (p.54 参照) を使用して Sun キーボードの機能をご利用ください。

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。